

☆作業日あれこれ

第2土曜の前日は雨、当日も朝方は作業日和と言えない日でした。そのせいか参加者の姿は時間が過ぎてもスタッフ以外に炭焼名人とマシカ見当たらず、二人で「こりゃ(参加人数の)最低記録やろか、台風でもこれより多かつたのに・・・。」と話していました。それでも9時前には何とか10人程が集まり観察会開始です。



紅梅の観察会

今月はブンの担当で、森の春の観察です。今年、森では紅梅の花が見つかり、その観察からです。この森には白い花のウメが3本だけだったのですが、今年、森の東南の角、竹林の縁に赤い花が咲いているのを見つけました。場所から想像するのにかつてごみとして捨てられたウメの実から発芽し成長したものでしょう。誰もが紅梅は花の色が赤いから紅梅と言うのかと考えていたのですが、ブンは材も中が赤いのでそう言うのだと写真を見せて説明しました。ならば「桜伐る馬鹿、梅伐らぬ馬鹿」だから切っても良からうと遠慮がちに細い枝を切って縦に割いて確かめたのですが、残念ながら赤いとは言い難い有様、一同「細すぎてわからんのだろう、太い枝を切るわけにもいかんしな」と得心。ところで「桜伐る・・・」についてですが、サクラは枝を切った跡を樹皮で覆う力が弱く、そこから腐りが入って樹勢を弱めるから切ってはいけないと言うことです。天狗素病対策などで枝を切る場合、ペースト状の融合剤を切り口に塗るようにと、サクラが専門の樹木医から教わりました。

一方、ウメの場合には、幹のあらゆるところから枝が出る性質があり切らなければ徒枝ばかりになってしまうこと、切り口を樹皮で覆う力が強いこと、伸びた枝の先に花が付く性質で古い枝は花付が悪く枯れやすいこともあり、枝を切った方が花も実も楽しめるので「梅伐らぬ馬鹿」と言うようです。この後、咲き始めたヤブツバキの花を観察し、森の白いウメの花を愛で木道へと回りました。途中、さえずり始めたウグイスの鳴き声を聞きましたが、まだ上手にホホキョとは鳴いていませんでした。ウグイスは、日の出前と日暮れ後の明るさを加えた日照の長さが12時間

余りを超えると脳に対する刺激になり男性ホルモンの分泌を促し、さえずり始めます。今年、森では2月25日にマルが初鳴きを聞きました。

木道沿いでは、昨年から花を付け始めたコブシの蕾の観察です。タケが除去された場所で、埋土種子から発芽しここまで成長したコブシですが、まだ幼樹のため1個しか蕾が付いていません。この地域では、山の斜面に咲くタムシバと水辺に咲くコブシが混同されていますが、コブシの方が自生木が少なく珍しい樹です。最後はキザギイゲ、ブンは先に芽を出して光合成をして栄養を蓄える役割の根生葉と花の咲く総苞葉の違いを説明していました。落ち葉を取り除くと白い蕾を付けた総苞葉も見つかりましたが、寒い冬が続く今年はまだ咲きそうにありませんでした。



モリイコ隊員 森を守る！

この日の作業では、普通は雨の後には落ち葉掻きをしないのですが、天候が回復したことと、この冬一度しかできていないこともあり決行しました。竹林整備がないので屈強の方々も参加しての作業でしたが、これでシュレンやエビネなどの林床の植物は、葉を覆っている落ち葉が取り除かれて光合成を充分に行うことができるでしょう。久しぶりに作業に参加して落ち葉かきを実施した人からは、「思った以上にきつかった」との感想が。そう、結構きつい作業です。もうひとつの作業は、この季節らしいカササクラのほだ木にナメの菌打ちです。このカササクラは先月の作業で伐採したもので、枯れるのを目前としていた大木でした。菌打ちリーダーのリョウマは初めての作業、参加者からドリルでの穴開け間隔などを聞きながらやっていました。1本の木のみのため打てる量はわずかでしたが、出てくるのが楽しみです。

お昼は野菜尽くし、白和えにぬた、春キャベツのサラダ等々、法事の御馳走にシニア組は大満足、クマはいつものミーティングの後の初めての拍手に感激、親方とのエントリスのコミュニケーション・モード、今月も反省です！

4月の作業日は

4月25日(水曜日) 週日活动 森の居酒屋は4月11日 午後7時頃～

4月14日(第2土曜日) 9時～(遅刻可)

主催者：遊林会

連絡先(遊林会事務局)：滋賀県 東近江市 河辺いきもの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210

URL : <http://www.yurinkai.org/>

E-mail : ikimono@e-omi.ne.jp

森のブログは「かわべえブログ」で検索！

水曜の作業は汗ばむ陽気に恵まれた絶好の作業日。この日の作業は、前から「あの木を伐ろう！」と皆で意気込んでいた大きなクサギの伐採です。この木はまだかろうじて生きているのですが、枝が徐々に枯れてきており、根元からは大きなキノコがコキコキと生えているなど枯れるのも時間の問題…という木でした。まだ生きている今のうちに伐採すれば、もしかしたら切り株から萌芽するかも…との期待もあって伐採することにしたのです。とはいえ、この時まで伐採を躊躇していた理由は、あまりにも木が大きすぎて参加者の頭数がそろわないと作業できなかったからです。胸の高さの直径約50cm、高さおよそ23mという、かなりの大木です。しかも枝の出方も複雑で、伐採方向を定めるのも非常に難しい木でした。

しかし水曜はベテラン揃い、ロープとチェーンソーを駆使して伐倒方向を見定めながら伐採に成功、倒れた時にはすごい地響きがしました。作業はここからが大変です。何しろ幹はチェーンソーのバーの長さよりも太いので、40cmに玉切りするのも一苦勞。そしてその丸太を運ぶのはさらに大変。何とか午前中に太い幹の運搬とすべての玉切りまでを全部終えてお昼になりました。

お昼は松本料理長不在につきカレー、しかし応援の手もあって何と5種類ものサラダが出来上がり、豪華なお昼となりました。おかげで午後からもパー満点で丸太の運搬作業にかかることができ、1時半にはすべての作業を終えることができました。それにしても、1本の木の伐採と処理に男性10人がかりで3時間以上かかる大仕事でした。

☆3月の木ままクラブ

気軽に気ままに木曜日に活動する木ままクラブ。3月は2回の活動を行いました。

3/1 12人 クサギ広場および水辺の林にナガシバとコナラ、クサギを植栽しました。いずれも森に放置すれば枯れるはずの木を移植です。

3/15 7人 伐採済みのカミザクラの材のうち、芯腐れしているものを薪割り機で割るとともに、丸太の一部を木道の階段用に据え付けました。

4月は19日が活動日です

☆河辺いきものの森情報

さて、今年度も大きな怪我もなく、子どもたちの笑顔がたくさん見られた年でした。今年度は新規スタッフが3名増え、にぎやかなスタッフルームでしたが、来年度は1人減って、事業内容は変わらないという厳しい状況です。より一層がんばらないといけません。

3月の24、25日に予定していた、10周年感謝祭もりもり満喫まつりは天気にも恵まれず、24日は雨、25日は曇り時々晴れでしたが、気温が低く

非常に寒い日でした。そんな中でも80人(予想よりは少なめですが)の方がやってきてくれて、森を満喫してくれました。森のイベントは子ども向けが多いのですが、今回は親御さんも一緒に参加してもらいました。子どもはもちろんのことなのですが、親御さんの方も真剣に、そして楽しんでおられる姿が印象的でした。子どもにとって、自分の親と一緒に遊ぶことができるのはとても嬉しいことであり、スタッフにとっても嬉しいことでありました。

そして10周年の春休みの森はイベントがたくさん続きます！27日からは、The100(ザ・ハンドレッド)～森にある100問の挑戦をクリアしよう～が始まりました。早速初日には、超常連の子どもたちがやってきて、なんと一日で100問すべてクリアしました！スゴイ！ここ数日で、100問クリアの強者が続出！春休み何かおもしろいことないかな～とお考えの方は、ぜひ挑戦しに来てくださいね！4月8日まで行っています！

☆モリイコ！の子どもたち

年間10回の活動を行うモリイコも、ついに最終回を迎えました。10回目のテーマは「森を育てる」ということで、保全活動を体験してもらうために木を伐ってもらいました。もちろんただ伐るだけでなく、「どうして木を伐ることが森を育てることにつながるのか？」という話もしましたが、それを体で感じてもらうために1番最初に森の大探検をしました。森の対角線を、道でも藪でも関係なくひたすら直進しました。そうすると暗い森も明るい森も通るので、木を伐るとどんな森になって、伐らないとどんな森になるのか、後で話をしたときに思い出しやすいだろうという狙いです。けれど狙いがいい意味で外れたというか、説明する前からもう分かっている子や、何となくは体で理解している子が多くて驚きでした。これも四季を通じて森に来てくれていた成果だと思います。

メインの伐採は、細めの杉を3～4人で1本、ノギリで切って倒しました。倒れた後は40cmずつに切り分けていきました。根元の太い部分を担当して苦戦している子どももいましたが、みんながんばって木の処理をしてくれました。

これで無事に1年間の活動を終えることができました。モリイコは来年も行いますので、また1年よろしく願います。

☆4月の作業は…

今の少ないこの時期、丁寧に下草刈りをしたり、草刈りなどをしていきます。春らしい陽気だと作業も気持ちいいですよ！

容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします！